

登録日本語教員養成総合課程
(420単位時間)

公開シラバス

学校法人アジアの風
岡山外語学院

科目番号	養1
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
日本語教育概論	4	西原鈴子	特定非営利活動法人 日本語教育研究所 理事長 前独立行政法人 国際交流基金 日本語国際センター 所長 元文化審議会 会長 元文化審議会 国語分科会 日本語教育小委員会 委員
到達目標	世界と日本の社会・文化を知ることによって教育者としてのグローバルな視点から国内に在住する外国籍住民の社会統合とその先に見える多文化共生社会の実現に向けてその課題及び現行の政策を理解する。そのうえで日本語教育界が取り組むべき諸側面とその具体的な実践の在り方を学ぶ。		
授業の概要	第1回 ○世界と日本の社会と文化 第2回 ○日本の外国人施策 第3回 ○多文化共生 第4回 ○多文化共生その2		

科目番号	養2
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
日本語教育史	2	本田弘之	元北陸先端科学技術大学院大学 グローバルコミュニケーションセンター 教授
到達目標	学習者に適切に接する態度や学習者の背景を理解するために、日本や他の国・地域との関わりを視野に入れた日本語教育の歴史について理解する。		
授業の概要	第1回 ○1945年までの日本語教育史 1.日本語教育史の学習目的と意味 言語政策と外国語教育、教育する側の目的と学習する側の目的、日本語教育史の時代区分 2.19世紀末までの「日本語学習」期、鎖国時代のヨーロッパ人の「日本研究」 3.第二次世界大戦終結までの日本語教育 清国留学生の来日、台湾、南洋群島、朝鮮、「満州国」、日本人の海外移住と日本語教育、情報戦としての日本語教育 第2回 ○1945年以降の日本語教育史 1.日本経済の高度成長と日本語教育 日本語教育の断絶と再開、日本の経済成長と日本語教育、「留学生10万人計画」 2.バブル終焉後の日本語教育 日本のサブカルチャーの隆盛と日本語教育、日本の人口動態と日本語教育 3.世界のグローバル化、情報化と外国語教育 「英語化」されていく世界、英語以外の言語教育の「未来」		

科目番号	養3
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
世界と日本の教育事情	4	西原 鈴子	特定非営利活動法人 日本語教育研究所 理事長 前独立行政法人 国際交流基金 日本語国際センター 所長 元文化審議会 会長 元文化審議会 国語分科会 日本語教育小委員会 委員
到達目標	日本における日本語教育の展開を計画するためには、学習者が受けてきた言語政策を学ぶ必要がある。また、全世界的に普及しているCEFR参照枠に基づく言語教育理念と実践を理解することも大切である。		
授業の概要	第1回 ○言語政策とは何か 第2回 ○世界と日本の日本語教育事情 第3回 ○言語政策と「ことば」 第4回 ○日本の日本語教育事情		

科目番号	養4
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
日本語教育の参照枠	2	島田 徳子	武蔵野大学 グローバル学部 グローバルコミュニケーション学科 教授 文化審議会 国語分科会 日本語教育小委員会 委員
到達目標	学習者のキャリアを考える上で必要となる日本語能力と評価、具体的な試験等について理解する。		
授業の概要	第1回 ○「日本語教育の参照枠」の全体像を理解する ○「日本語教育の参照枠」の日本語能力観や評価に対する考え方について理解する 第2回 ○「日本語教育の参照枠」の活用方法や、既存の試験について理解する ○「日本語教育の参照枠」による日本語能力の測定やレベル判定に対する考え方を理解する ○学習者の属性や進路に必要な試験の情報について理解する		

科目番号	養5
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
社会言語学	10	関崎友愛	日本語サービスYOU&I 代表 元東京成徳大学 人文学部 日本伝統文化学科 非常勤講師 元独立行政法人 国際交流基金 日本語国際センター 専任講師
到達目標	学習者の円滑な社会生活を実現するために、同一言語内における言語変種とその要因及び言語が使用される社会における言語使用の実態や、言語行動を支える社会的・文化的慣習について理解している。		
授業の概要	第1回 ○言語と地域について学ぶ 第2回 ○言語と社会階層について学ぶ 第3回 ○言語とジェンダーについて学ぶ 第4回 ○言語と年齢について学ぶ 第5回 ○言語の選択について学ぶ 第6回 ○言語の適切さについて学ぶ 第7回 ○コミュニケーションの民族誌について学ぶ 第8回 ○語用論について学ぶ 第9回 ○社会言語学からの貢献について考える 第10回 ○CEFR・日本語教育の参照枠における「社会言語的能力」「コミュニケーション言語方略」について理解する		

科目番号	養6
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
言語と社会	8	関崎友愛	日本語サービスYOU&I 代表 元東京成徳大学 人文学部 日本伝統文化学科 非常勤講師 元独立行政法人 国際交流基金 日本語国際センター 専任講師
到達目標	社会における円滑なコミュニケーションを実現するための言語的な方略、社会や集団において求められる待遇表現、非言語行動の様相について理解している。多言語多文化社会について理解し、共生社会の実現に向けて教育的観点からも理解している。		
授業の概要	第1回 ○コミュニケーションストラテジーについて理解し、教育実践においてどのように扱うか 理解する 第2回 ○ポライトネスの概念を理解する 第3回 ○日本語の敬語体系について理解する 第4回 ○待遇表現（尊敬語・謙譲語・丁寧語など）について理解する 第5回 ○非言語行動の種類や特徴を理解し、教育実践においてどのように扱うか理解する 第6回 ○異文化に対する態度（多言語多文化主義、複言語複文化主義など）について理解する 第7回 ○異文化理解の必要性について理解する 第8回 ○多文化共生社会の実現に必要な教育的アプローチについて理解する		

科目番号	養7
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
言語理解と習得	12	大関浩美	麗澤大学 外国語学部外国語学科／言語教育研究科 教授
到達目標	第二言語習得に関する基礎および言語理解の仕組み、記憶の仕組みについて学ぶ。これらに関する基本的な知見を身につけ、それを日本語教育現場にどう結びつけ応用できる力をつけることを目標とする。		
授業の概要	<p>第1回 ○学習者言語の見方の変遷を知り、誤用の種類、誤用分析、中間言語分析について知る</p> <p>第2回 ○中間言語の特徴とその発達過程について学ぶ</p> <p>第3回 ○母語の影響について学ぶ。正の転移・負の転移・語用論的転移などの特徴を知る</p> <p>第4回 ○習得順序や発達順序について知り、特に発達段階に沿った指導の必要性を考える</p> <p>第5回 ○インプットやアウトプットの役割について知り、教室活動に応用できる力をつける</p> <p>第6回 ○教室指導の効果について学ぶ。特に明示的な文法指導の役割を知り、また習得が難しいものや易しいものの特徴を知って、指導効果を考える</p> <p>第7回 ○訂正フィードバックについて学ぶ。特にリキャスト・プロンプトの特徴と効果を考える</p> <p>第8回 ○第一言語習得、バイリンガリズム、第二言語習得への年齢の影響について学ぶ</p> <p>第9回 ○学習者の個人要因について学び、外国語学習適性や学習スタイルの影響、また学習ストラテジーについて学ぶ</p> <p>第10回 ○動機づけ、不安などの情意的要因について考え、また学習者オートノミーについても考える</p> <p>第11回 ○記憶の仕組みについて学び、外国語学習とどのように関わるかを考える</p> <p>第12回 ○言語理解の仕組みについて学び、読解・聴解教育に知見を応用できる力をつける</p>		

科目番号	養8
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
異文化理解と心理	4	浜田麻里	京都教育大学 国文学科 教授
到達目標	<p>異文化理解と学習者の心理について学ぶ。</p> <p>(1) 異文化接触によって学習者に生じる問題や異文化適応の過程を理解し、支援の方法を知る。</p> <p>(2) 学習に影響を与える心理的要因を理解し、心理的側面から支援する方法を知る。</p>		
授業の概要	<p>第1回「異文化受容・適応」</p> <p>①文化とは何かを考える（文化をどう捉えるか／偏見／カルチャーショック）</p> <p>②異文化適応の過程を知る（関係性としての異文化適応／異文化受容）</p> <p>③異文化適応と発達の関わりを知る（臨界期／サードカルチャーキッズ／アイデンティティ）</p> <p>第2回「異文化適応の援助」</p> <p>①発達主体として学習者を捉える</p> <p>②異文化トレーニングについて知る</p> <p>③教師の役割を考える</p> <p>第3回「日本語学習の心理的側面」</p> <p>①言語学習認知について知る</p> <p>②言語学習に影響を与える心理的要因について知る（不安／感情／情意フィルター仮説／文化適応理論）</p> <p>③動機づけについて考える</p> <p>第4回「日本語学習の援助」</p> <p>①学習カウンセリングについて知る</p> <p>②学習環境のデザインについて考える（学習者オートノミー／グループダイナミクス）</p> <p>③アイデンティティと言語学習について考える</p>		

科目番号	養9
------	----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
日本語教師の資質・能力	2	加藤早苗	インターカルト日本語学校 校長 インターカルト日本語教員養成研究所 所長
到達目標	日本語教育人材の役割・段階・活動分野、求められる資質・能力について知り、「必須の教育内容」の学習項目や到達目標についても理解する。 日本語教師として自律的に成長するために、授業を客観的に分析する方法を理解し、授業の自己点検・他者評価を通じて実践できるようになる。 以上のことを通して、自身の活動分野や日本語教師としてのキャリアパスを描く。		
授業の概要	<p>第1回 ○日本語教育人材の整理－6つの活動分野と、3つの役割 ○日本語教育人材に求められる資質・能力－知識、技能、態度 ○日本語教師の資格の創設－教育の質の確保、国家資格化 ○日本語教師になるために学ぶこと－必須の教育内容50項目</p> <p>第2回 ○授業を客観的に分析する視点 ○授業の振り返りから改善に至るサイクルの理解と実践 ○自己研修の方法と教師の成長</p> <p>上記の履修から、「日本語教師に求められる資質・能力（知識・技能・態度）」、「日本語教師養成における必須の教育内容」、「日本語教師の活動分野及び各分野において連携する関係者とその関係」を理解し、授業の自己点検・他者評価を通じて授業実践ができるようになる</p>		

科目番号	養10
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
コースデザイン	8	久保田美子 原彩子 中島喜代美	早稲田大学 日本語教育研究センター教授 一般財団法人 海外産業人材育成協会 登録日本語講師 東京福祉大学 留学生日本語別科 非常勤講師
到達目標	様々な日本語教育プログラムの目的や対象者について理解し、それぞれのプログラムに合ったコースデザインができるように、コースデザインの方法について学び、理解することを目標とする。また授業計画を立て、自らの授業実践を振り返るための方法についても学ぶ。		
授業の概要	<p>第1回 ○様々な日本語教育プログラムの目的、目標、対象者について知る ○コースデザインの流れについて理解する</p> <p>第2回（コースデザインのための調査、コース目標の立案） ○ニーズ調査・分析、レディネス調査・分析について理解する ○目標言語調査、目標言語使用調査、コース目標の立案について理解する</p> <p>第3回（シラバスデザイン） ○シラバスデザイン、シラバスの様々な種類を理解する ○ニーズとシラバスの関係について考える</p> <p>第4回（カリキュラムデザイン） ○カリキュラムデザインについて理解する ○言語能力記述文（Can-do）をベースにしたコースデザインの方法（バックワード・デザイン）について理解する</p> <p>第5回（授業計画） ○到達目標、指導項目の分析、授業構成の立案など、授業計画の一連の流れについて理解する ○シラバスやカリキュラムの違いによって、授業構成が異なることを理解する</p> <p>第6回（教案） ○教案作成の方法について学ぶ</p> <p>第7回（授業評価） ○授業評価、授業実践の振り返りなど、より良い授業にするための方法について考える</p> <p>第8回（コース評価、日本語プログラムの改善） ○コースデザインの評価について理解する ○日本語教育プログラムの点検・評価及び改善の方法について理解する</p>		

科目番号	養11
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
学習環境と教材	4	立部文崇	周南公立大学 経済学部 准教授
到達目標	日本語学習者の学習環境を取り巻く要素（ハード面：教室にどのような機器があるのか、また機器を使うことで何ができるのか、ソフト面：教室環境を充実させるために教室の周りにどのような支援機関等があるか）を理解するとともに、より一層の環境の充実に資する関連機関との連携必要性についても理解できる。		
授業の概要	第1回 ○日本語学習者が学ぶ環境の多様性について（教室環境等） 多様な日本語学習者が学ぶ日本語教室環境を知る 第2回 ○日本語学習を充実させる学習環境について（教材等） 多様な日本語学習者が学ぶ際に用いられる教材とその使用方法（環境）を知る 第3回 ○日本語学習を支える関係について（地域の支援機関等） 多様な日本語学習者の学習環境を支える連携機関、また連携の実例を知る 第4回 ○日本語学習の充実に資するICT活用について 教室環境、学習環境、連携関係に新たな可能性を生み出すICT技術の実例と可能性を知る		

科目番号	養12
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
教授法	10	渋谷実希	元国際交流基金 バンコク日本文化センター 元専任講師 東京大学 教養学部 非常勤講師
到達目標	様々な外国語教授法の特徴、技法、教育効果について理解することにより、多様な学習者に応じた教授方法を選択・活用できるようになる。また、教授法の歴史的変遷から外国語学習に対する考え方の変化について理解し、ポスト教授法の時代において教授法を学ぶ意義について理解する。		
授業の概要	毎回、様々な教授法の特徴や考え方、誕生した社会的背景等について解説する。可能な場合は、実際に教授法の体験を行い、それぞれの長所や短所について考察する。またそれらを踏まえ、各教授法がどのような学習者、ニーズ、目的に対応できるか、さらに自身の授業にどのように活かせるかについて考える。 第1回 ○外国語教授法の歴史的変遷 ○外国語教授法の3つの側面（用語） ○「文法訳読法」の特徴や教育効果／「文法訳読法」でインドネシア語を学ぶ体験 ○「文法翻訳法」の長所と短所 第2回 ○18世紀後半からのコミュニケーションの変化 ○「直接法」の特徴及び分類される各教授法の特徴と考え方 ○「直接法」の体験 - タイ語のあいさつ／直接法の強みと弱み ○「直接法」と「折衷法」 第3回 ○構造主義言語学と行動心理学 ○「ASTP 陸軍特別訓練プログラム」の特徴や教育効果 ○「オーディオリンガル・メソッド」の特徴や教育効果／長所と短所・批判 ○パターン・プラクティス（ドリル練習） 第4回 ○心理学や認知学習理論に理論的基盤を置く教授法 ・「サイレント・ウェイ」の特徴や教育効果／長所と短所 ・「コミュニティ・ランゲージ・ラーニング」の特徴や教育効果／長所と短所 第5回 ○心理学や認知学習理論に理論的基盤を置く教授法 ・「トータル・フィジカル・レスポンス(TPR)」の特徴や教育効果／長所と短所 ・「ナチュラル・アプローチ」の特徴、5つの仮説や教育効果／長所と短所 第6回 ○心理学や認知学習理論に理論的基盤を置く教授法 「サジェストベディア」の特徴や教育効果／長所と短所 ○「コミュニケーション・アプローチ」の出現 ・概念シラバスと機能シラバス ・コミュニケーション能力 第7回 ○JGP (EGP) とJSP(ESP) ○オーディオリンガル・メソッドとコミュニケーション・アプローチの比較 ○「コミュニケーション・アプローチ」の教室活動／自然なコミュニケーションに近づくための3つの要素 第8回 ○「言語」と「内容」を切り離さない学習の考え方とその特徴 ・「イマージョン・プログラム」の特徴や学習効果 ・「CBIとCLIL」の特徴や学習効果 ・「協働（言語）学習法／ピア・ラーニング」の特徴や学習効果 第9回 ○教え方の具体例 ・仮名の学習：連想法／アソシエーション法 ・聴解の教え方 第10回 ○全体のまとめ ・教授法の変遷から何を学ぶか ・例として：初級クラスの授業展開にどのように教授法が生かされているか		

科目番号	養13
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
評価法	12	伊東祐郎	国際教養大学 専門職大学院 日本語教育実践領域 特命教授 元文化審議会 国語分科会 会長 元文化審議会 国語分科会 日本語教育小委員会 委員 元公益社団法人 日本語教育学会 会長
到達目標	本講義では、言語知識及び言語能力について概観し、良問作成のために必要な理論と技能を獲得することをねらいとします。また、最近の「日本語教育の参照枠」等、標準・基準におけるテストングの役割についても考察します。テスト作成の演習とディスカッションを通して、評価に対する理解を深めることが最終目標です。		
授業の概要	<p>言語テストにおける信頼性、妥当性、実用性、真正性の概念を把握し、テスト作成との関連性について考察する。目標を達成するために以下の項目について授業を構成する。</p> <p>第1回 ○日本語教育カリキュラムと評価の関係について考察する 第2回 ○言語知識と言語運用力の測定方法について把握する 第3回 ○口頭表現力を引き出す方法と測定手順、評価の方法を考察する 第4回 ○文章表現力の下位能力を考察し、適切な課題と評価方法を検討する 第5回 ○聴解力の下位能力を考察し、適切な課題と評価方法を検討する 第6回 ○読解力の下位能力を考察し、適切な課題と評価方法を検討する 第7回 ○最近の言語能力観の捉え方と評価の多様性について考察する 第8回 ○文字指導の内容とその評価方法について理解する 第9回 ○語彙指導の内容とその評価方法について理解する 第10回 ○文法指導の内容とその評価方法について理解する 第11回 ○良問作成のためのテスト統計について理解する 第12回 ○テスト得点の活用について理解する</p>		

科目番号	養14
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
目的別・対象別日本語教育	32	加藤早苗	インターカルト日本語学校 校長 インターカルト日本語教員養成研究所 所長
到達目標	活動分野「生活者としての外国人」「留学」「就労」「児童生徒」「難民」「海外」について、対象別日本語教育の目的や目標、プログラムの特徴を理解し、その事例に触れることによって、それぞれにおける日本語教育プログラムを考えるための基礎的な知識を得る。		
授業の概要	<p>第1回 ○「生活者としての外国人」に対する日本語教育 事例1 地域における日本語教師の役割 2 空白地域での日本語教育 3 地域日本語教育での外国人との連携 4 日本語学校と地域の連携 第2回 ○留学生等に対する日本語教育 事例1 留学生に対する日本語教育 2 短期学習者に対する日本語教育 第3回 ○就労者に対する日本語教育 事例1 ビジネスパーソンに対する日本語教育 2 外国人労働者送り出しの制度と機関の役割 3 外国人労働者に対する国内での日本語教育 4 介護従事者に対する日本語教育 第4回 ○児童生徒に対する日本語教育 事例1 地域の日本語教室での日本語教育 2 小中学校での児童生徒の取り出し授業での日本語教育 第5回 ○難民等に対する日本語教育 事例1 難民等に対する日本語教育の実際 第6回 ○海外で学ぶ学習者に対する日本語教育 事例1 各国での成人に対する日本語教育の実際 2 世界各国での継承語としての日本語教育の実際</p>		

科目番号	養15
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
異文化間教育	6	池田聖子	日本大学 国際関係学部 准教授
到達目標	文化の多様性を尊重し、異なる文化背景を持つ者同士の円滑なコミュニケーションを実現するために、異文化間教育に関する基礎的な知識を身に付け、文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーション方略について理解する。		
授業の概要	<p>第1回 ○異文化間教育分野の成り立ち、異文化受容訓練や多文化教育について知る ○異文化間で生じる文化摩擦の事例をケーススタディなどで学ぶ</p> <p>第2回 ○日本語教師として多様な背景を持つ学習者と良好な関係を築き、円滑なコミュニケーションを行うために必要なことについて考える ○異なる文化・背景を持つ学習者同士が協働し、主体的に学び合う態度を育成するために必要なことについて考える</p> <p>第3回 ○言語・非言語コミュニケーション、コミュニケーションスタイル、価値観などの相違から異文化間のコミュニケーションにおいて留意すべき点について考える</p> <p>第4回 ○異なる文化・言語を有する人々それぞれの物事のとらえ方やコミュニケーション・ストラテジーについて学ぶ ○自己開示について考え方や手法、ラポール形成の手法、エポケーなど、異文化コミュニケーションスキルについて知る</p> <p>第5回 ○コミュニケーション及びコミュニケーション教育について知る ○日本語教育活動において学習者及び支援者が行う多様なコミュニケーション活動について考える</p> <p>第6回 ○「日本語教育の参照枠」における言語教育観と一般的能力、コミュニケーション言語能力・コミュニケーション言語活動、コミュニケーション言語方略、熟達度について学ぶ</p>		

科目番号	養16
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
著作権	2	我妻潤子	株式会社テイクオーバー 所属 東京藝術大学 非常勤講師
到達目標	効率的で創造的な日本語教育を行うために、日本語教育活動を行う上で必要となる著作権の基礎的な知識や著作物やフリー素材の取り扱いについて理解を深め、より実践的に著作権について考える力を身につける。		
授業の概要	<p>第1回 ○著作権の基礎知識について理解する ・著作権の基本的な考え方（白・黒ではない）、著作権の保護対象となる著作物の説明、権利の内容、保護期間など基礎的な知識を身につける</p> <p>第2回 ○教材や教具の作成及び活用における著作物の取り扱いについて理解を深める ・日本語教員が使用することの多い「フリー素材」の注意点、クリエイティブコモンズ・ライセンス、著作権の例外規定である「引用」の考え方を身につける ・オンライン授業における著作物の取り扱いについて理解を深める 日本語学校では、オンライン授業であっても対面の授業であっても権利処理が必要であるため、権利処理について理解を深める</p>		

科目番号	養17
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
言語学	8	堤良一	岡山大学 学術研究院 社会文化科学学域 教授
到達目標	言語の仕組みを理解する。日本語と他の言語の異同を、相対的な視点から観察することが出来る。言語学がどのように進展したかを理解し、重要な用語について理解することができる。また、これらの能力を応用して日本語を分析することが出来る。		
授業の概要	第1回 ○言語学とはなにかについて知る、言語の特性について知る、形態素と音素について知る 第2回 ○言語学の歴史について知る、言語類型論について知る、言語の系統について知る、対照言語学について知る① 第3回 ○対照言語学について知る② 第4回 ○形態論について知る、統語論について知る① 第5回 ○統語論について知る②、生成文法について知る、意味論について知る～語用論について知る① 第6回 ○語用論について知る②、認知言語学について知る① 第7回 ○認知言語学について知る②、会話分析について知る① 第8回 ○会話分析について知る②、文法カテゴリーについて知る、南の階層構造について知る		

科目番号	養18
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
文法Ⅰ	30	立部文崇	周南公立大学 経済学部 准教授
到達目標	日本語を外国人(非日本語母語話者)に教えるにあたって、日本語の構造、また知っておくべき文法の基礎知識を身につけることによって、日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えることができるようになる。		
授業の概要	第1回 ○日本語文法の基礎知識、文の構造 1 第2回 ○基本的な文の種類、文の構造 2（複雑さ） 第3回 ○名詞文 第4回 ○指示詞 第5回 ○形容詞・形容文 第6回 ○動詞文 第7回 ○動詞の活用 第8回 ○辞書形 第9回 ○ます形 第10回 ○て形 第11回 ○た形 第12回 ○自動詞・他動詞 第13回 ○テンス 第14回 ○アスペクト 第15回 ○モダリティ 第16回 ○ヴォイス授受表現 第17回 ○授受表現名詞修飾 第18回 ○名詞修飾 第19回 ○助詞（1） 第20回 ○助詞（2） 第21回 ○副詞 第22回 ○接続詞 第23回 ○敬語 第24回 ○条件 第25回 ○原因・理由 第26回 ○依頼・命令 第27回 ○誘い 第28回 ○許可・義務 第29回 ○意見・提案 第30回 ○総まとめ		

20科目番号	養19
--------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
文法Ⅱ	20	立部文崇	周南公立大学 経済学部 准教授
到達目標	「日本語教育の参照枠」を基準とした能力観ベースとし、日本語を外国人(非母語話者)に教えるために知っておくべき日本語の構造や規則を整理することを目的とする。同時に、日本語母語話者が無意識のうちに習得してきた日本語の「規則」を意識化するとともに、日本語を外国語として分析できる目を養っていく。		
授業の概要	第1回 ○日本語教育の参照枠から考える文法 第2回 ○「自己紹介」における文法分析 (A1/A2レベル) 「名詞文」「形容詞文」「助詞」 第3回 ○「自己紹介」における文法分析 (B1レベル) 「名詞修飾(形容詞)」「たら／ても」「したい」 第4回 ○「買い物」における文法分析 (A1/A2レベル) 「疑問詞疑問文」「所在文」「存在文」 第5回 ○「買い物」における文法分析 (B1レベル) 「受身(作られている等)」「てもいい」「てください」 第6回 ○「買い物時のトラブル」における文法分析 (B1レベル) 「てもらう」「ています(結果)」「んです」 第7回 ○「家族の紹介」における文法分析 (A1/A2レベル) 「ています(結果等)」「指示詞」「形容詞等をもちいた描写」 第8回 ○「家族の紹介」における文法分析 (B1レベル) 「使役」「くれる、てくれる」「受身」 第9回 ○「旅行」における文法分析 (A1/A2レベル) 「動詞文」「行きます、帰ります等」「前、てから」 第10回 ○「旅行」における文法分析 (B1レベル) 「てしまう」「可能形」「ないで・て」 第11回 ○「旅行」における文法分析 (B1レベル) 2 「ておく」「ようと思う」「かもしれない」 第12回 ○「体験描写」における文法分析 (A1/A2レベル) 「～たことがある」「た形」「たりたり」 第13回 ○「体験描写」における文法分析 (B1レベル) 「名詞修飾(動詞)」「く・になる」「ようになる」 第14回 ○「体験描写」における文法分析 (B1レベル) 「理由(て、で)」「のに」「ています(動作)」「～時」 第15回 ○「社会ルール説明」における文法分析 (A1/A2レベル) 「ないでください」「ない形」「てもいい」 第16回 ○「社会ルール説明」における文法分析 (B1レベル) 「たほうがいい」「ことになっている」「てはいけない」 第17回 ○「文化の描写」における文法分析 (B1レベル) 「なければならない」「なくてもいい」「あげもらい」 第18回 ○「研究・調査発表」における文法分析 (A1/A2レベル) 「埋込疑問文」「比較」「と思う」 第19回 ○「研究・調査発表」における文法分析 (B1/B2レベル) 「普通体・丁寧体」「敬語」 第20回 ○日本語教育の参照枠から考える文法(まとめ)		

科目番号	養20
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
音声	12	堤良一	岡山大学 学術研究院 社会文化科学学域 教授
到達目標	言語の音声がどのように発音されるか、その仕組みを学ぶ。IPAを読みこなし、どの発音がどのように発音されているかを理解することが出来る。モーラ、音節、アクセントなどの重要な概念について理解することが出来る。		
授業の概要	第1回 ○音声学とは何かについて知る、IPAとは何かについて知る 第2回 ○母音がどのように発音されるか知る、子音がどのように発音されるか知る① 第3回 ○子音がどのように発音されるか知る② 第4回 ○子音がどのように発音されるか知る③、モーラについて知る① 第5回 ○モーラについて知る②、音節について知る、音の変化について知る、音声学と音韻論について知る 第6回 ○音素について知る、アクセントについて知る① 第7回 ○アクセントについて知る②、共通語のアクセントについて知る① 第8回 ○共通語のアクセントについて知る②、方言のアクセントについて知る① 第9回 ○方言のアクセントについて知る②、アクセントの機能について知る、音節構造について知る① 第10回 ○音節構造について知る②、イントネーションについて知る、リズムについて知る① 第11回 ○リズムについて知る②、音象徴について知る、非母語話者の日本語について知る① 第12回 ○非母語話者の日本語について知る②、外来語のアクセントについて知る		

科目番号	養21
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
文字表記	12	神本令子	インターカルト日本語学校 教務
到達目標	日本語の表記は、主に漢字、平仮名、片仮名の三種類の文字を使い分ける。各文字そのものの性質や特徴、その歴史的な背景、その使われ方などを知るとともに、いかに教えたらいいか、いかにしたらより効率的な教え方ができるかなどを含めて、考えていきたい。		
授業の概要	第1回 ○文字表記とは / 各国の言語と表記 / 日本語の表記の特徴 第2回 ○漢字について① 常用漢字 第3回 ○漢字について② 漢字の成り立ち・六書 第4回 ○漢字について③ 国字・音読みと訓読み / 教える時のヒント (形声・部首) 第5回 ○送り仮名の付け方 第6回 ○現代仮名遣いとは 第7回 ○漢字の教え方 (音訓・応用できる読みと特別な読み) 第8回 ○漢字の教え方 (多様な読み・音変化) 第9回 ○平仮名の成り立ち / 片仮名の成り立ち / カタカナ語の特徴・カタカナ語の教え方 第10回 ○外来語は何か難しいのか？ 第11回 ○ローマ字 (ローマ字の書き方・ローマ字の歴史・ローマ字使用の現状) 第12回 ○日本語の表記のいろいろ (正書法と幅広い表記法・その対策)		

科目番号	養22
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
語彙	15	木下謙朗	龍谷大学 経済学部 現代経済学科 准教授
到達目標	日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えることを目標に、日本語の形態論と語構成を理解し、日本語教育のための意味体系に関する知識を学び、さらに、語彙指導に必要なとなる知識を身につける。		
授業の概要	<p>第1回 ○語彙とは何か知る ○日本語教育の参照枠と「語彙」科目の関連性を考える ○語彙の体系について学ぶ</p> <p>第2回 ○語彙調査の方法について知る ○異なり語数と延べ語数、基本語彙と基礎語彙、使用語彙と理解語彙の違いについて学ぶ ○語彙量と日本語教育の認定基準について知る</p> <p>第3回 ○言語学からみた形態論とその周辺領域について理解する ○語形の認定標識の基準について学ぶ ○語形変化や活用規則について学ぶ</p> <p>第4回 ○語種の分類方法や、和語・漢語・外来語・混種語の違いについて理解する ○学習者による外来語の習得について学ぶ</p> <p>第5回 ○日本語の品詞・品詞分類について理解する ○語構成、語の種類（単純語と合成語）について学ぶ</p> <p>第6回 ○疊語と派生語（接辞）特徴について学ぶ ○語の造語法について学ぶ ○合成語が作られるさいの変音現象について理解する</p> <p>第7回 ○語と語の意味、類義語間の意味の関係、反義語間の意味の対立について学ぶ ○語と語の組み合わせ（共起表現）の選択制限（共起制限）について理解する</p> <p>第8回 ○語結合と連語（コロケーション）の分類について理解する ○慣用句と比喻の分類について学ぶ</p> <p>第9回 ○オノマトペの特徴を学び、分類方法について学ぶ ○日本語教育におけるオノマトペ教育について知る</p> <p>第10回 ○語の意味変化の傾向、またその原因、一般的傾向について理解する ○言語表現の意味分類について学ぶ</p> <p>第11回 ○位相についての概念を学ぶ ○女性語や男性語、集団語の職業語や専門語、若者語について理解する</p> <p>第12回 ○日本語の待遇表現の体系について理解する ○話しことばと書きことばの特徴を知る ○コーパスについて学び、その利用方法について学ぶ</p> <p>第13回 ○日本の辞書の変遷について知る ○日本語教育に関するコンテンツを知り、その利用方法について理解する ○第一言語としての語彙の習得について学ぶ</p> <p>第14回 ○第二言語としての語彙の習得について学ぶ ○語彙の学習方略について学ぶ ○語彙の導入方法について知る</p> <p>第15回 ○語彙の導入方法と練習方法について知る ○語彙の導入方法と練習方法について考える</p>		

科目番号	養23
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
コミュニケーション能力	5	加藤早苗 池田聖子	インターカルト日本語学校校長 インターカルト日本語教員養成研究所所長 日本大学国際関係学部准教授
到達目標	学習者の日本語によるコミュニケーション能力を育成するために、コミュニケーション能力に関する知識を身につける。また、日本語教育を実践する上で必要となるコミュニケーション能力を向上させる。		
授業の概要	<p>第1回 ○「日本語教育の参照枠」の受容的な言語活動「聞くこと」「読むこと」及びコミュニケーション言語能力（言語運用能力）について学ぶ ○教育実践を行う上で学習者の受容・理解能力（読むこと・聞くこと）及び産出的な言語活動「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」を向上させるための方法を考える ○コミュニケーションを通じてコミュニケーションを学ぶという日本語教育の特性を知る</p> <p>第2回 ○「日本語教育の参照枠」における社会言語能力について学ぶ ○コミュニケーション能力の一つである対人関係能力について学ぶ ○「日本語教育の参照枠」の一般的能力について学ぶ</p> <p>第3回 ○「受容・理解能力」「言語運用能力」に関する事例・ケーススタディ</p> <p>第4回 ○「社会文化能力」「対人関係能力」「異文化調整能力」に関する事例・ケーススタディ</p> <p>第5回 ○学習者の社会言語能力や社会文化能力、また、日本語教育を通じて対人関係能力を向上させるための方法を考える ○異文化接触の場面で生じる問題について理解し、問題が生じた際に教師としてどのように対応すべきか考え、望まれる姿勢や態度について考える ○学習者と学習者の周りの関係をつなぎ、より効果的な教育実践を行えるよう、自らの対人関係能力及び異文化調整能力を向上させるための方法について考える</p>		

科目番号	養24
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
教授法演習A1基礎	38	岡山外語学院 人材育成部 常勤講師	
到達目標	<p>・初級日本語（A1レベル前半）の授業組み立てをする上で必要な事項を理解し、講師の指導の下で授業計画を考え、その中の一部である短時間の教案を作成することができる。また、授業内活動を考え、その活動の詳細を決定することができる。</p> <p>・模擬授業に参加する中で、外国人に「日本語」を教える際に問題となることを知り、対処する方法について考えることができる。</p> <p>・講師の指導の下で準備した模擬授業を、模擬授業実施までの一連の過程を含め、自分で残した記録をもとに振り返り、自分の強みと弱みを知り、理解している。</p>		
授業の概要	<p>模擬授業使用テキスト：初級前半教科書『文化初級日本語Ⅰ テキスト 改訂版』 模擬授業範囲：生活会話～第11課（A1レベル前半） 学習を始めて日の浅い外国人学習者に対する初級前半を範囲とする。 座学や授業見学で理解したことをもとに、授業課項目分析表を作り、授業を組み立て、教案補講を経て教案や教材・教具を完成させ、教員役として授業としての一連の流れを踏まえた短時間の模擬授業（15分間）を行う。</p> <p>1日目 オリエンテーション、講義（教科書分析・授業課分析） 2日目 講義（教科書分析・授業課分析） 3～6日目 授業準備 7日目 模擬授業（1回目）、振り返り 8日目 授業準備 9日目 模擬授業（2回目）、振り返り 指定日 授業見学</p>		

科目番号	養25
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
教授法演習A2基礎	38	岡山外語学院 人材育成部 常勤講師	
到達目標	<p>・初級日本語（A2レベル前半）の授業組み立てをする上で必要な事項を理解し、講師の指導の下で授業計画を考え、その中の一部である短時間の教案を作成することができる。また、授業内活動を考え、その活動の詳細を決定することができる。</p> <p>・模擬授業に参加する中で、外国人に「日本語」を教える際に問題となることを知り、対処する方法について考えることができる。</p> <p>・講師の指導の下で準備した模擬授業を、模擬授業実施までの一連の過程を含め、自分で残した記録をもとに振り返り、自己分析の中で自分の強みと弱みを知り、理解している。</p>		
授業の概要	<p>模擬授業使用テキスト：初級後半教科書『文化初級日本語Ⅱ テキスト 改訂版』 模擬授業範囲：第19課～25課（A2レベル前半） 出来事や他者について簡単に述べる程度ので外国人学習者に対する初級後半を範囲とする。 これまでの座学と今回の講義で学んだこと、授業見学で理解したことに加えて前回の科目で経験したことをもとに、授業課項目分析表を作り、授業を組み立て、講師による教案補講などを経て教案や教材・教具を完成させ、教員役として前回の模擬授業より練習内容を充実させた短時間の模擬授業（20分）を行う。</p> <p>1日目 オリエンテーション、講義（教科書分析・授業課分析） 2日目 講義（教科書分析・授業課分析） 3～6日目 授業準備 7日目 模擬授業（1回目）、振り返り 8日目 授業準備 9日目 模擬授業（2回目）、振り返り 指定日 授業見学</p>		

科目番号	養26
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
教授法演習A1応用	25	岡山外語学院 人材育成部 常勤講師	
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・身につけた知識を使い、初級日本語（A1レベル後半）の教案を自分の力で作成することができる。また、授業内活動を考え、その活動の詳細を決定することができる。・模擬授業に参加する中で、外国人に「日本語」を教える際に問題となることを知り、対処する方法について考えることができる。また模擬授業を最後まで通常の授業のように実施することができる。・他受講者の感想や講師からのフィードバック、自身の反省からの改善点を整理し、学んだことを用いて振り返りを行い、自己分析の中で自分の強みと弱みを知り、教壇実習をする際に役立てる経験として生かすことができる。		
授業の概要	<p>模擬授業使用テキスト：初級前半教科書『文化初級日本語Ⅰ テキスト 改訂版』 模擬授業範囲：第12課～18課（A1レベル後半） 自分のことを簡単に説明できる程度の外国人学習者に対する初級前半を範囲とする。 これまでに受講生が日本語教育に関して学び経験してきたこと、今回の演習での授業や授業見学で学び考えたことをもとに自律的に授業準備をし、教案補講を経て教案や教材・教具を自分の力で作成して完成させ、教員役として導入から練習までICT機器も活用した模擬授業（30～40分間）を行う。</p> <p>1日目 オリエンテーション、講義（教科書分析・授業課分析） 2～4日目 授業準備 5日目 模擬授業（1回目）、振り返り 6日目 模擬授業（2回目）、振り返り 指定日 授業見学</p>		

科目番号	養27
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
教授法演習A2応用	25	岡山外語学院 人材育成部 常勤講師	
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・身につけた知識を使い、初級日本語（A2レベル後半）の教案を自分の力で作成することができる。また、授業内活動を考え、その活動の詳細を決定することができる。・模擬授業に参加する中で、外国人に「日本語」を教える際に問題となることを知り、対処する方法について考えることができる。また模擬授業を最後まで通常の授業のように実施することができる。・他受講者の感想や講師からのフィードバック、自身の反省からの改善点を整理し、学んだことを用いて振り返りを行い、自己分析の中で自分の強みと弱みを知り、教壇実習をする際に役立てる経験として生かすことができる。		
授業の概要	<p>模擬授業使用テキスト：初級後半教科書『文化初級日本語Ⅱ テキスト 改訂版』 模擬授業範囲：第26課～34課（A2レベル後半） 自分の心情の説明や現実に日常生活でよく使われる表現（待遇表現など）が理解できる程度の外国人学習者に対する初級後半を範囲とする。 これまでの演習で経験し学んだこと、今回の演習での授業や授業見学で学び考えたことをもとに、ICT機器の活用についての理解も深めたうえで、まず自分の力で教案や教材・教具を作成し、そこから教案補講を経て修正、完成させたものを使用し、教員役として模擬授業（30～40分間）を行う。</p> <p>1日目 オリエンテーション、講義（教科書分析・授業課分析） 2～4日目 授業準備 5日目 模擬授業（1回目）、振り返り 6日目 模擬授業（2回目）、振り返り 指定日 授業見学</p>		

科目番号	養28
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
文法教授法B1・B2	12	岡山外語学院 人材育成部 常勤講師	
到達目標	・ A1, A2とB1, B2の違いを認知し、文法や文型の詳細のみにとらわれない教え方、授業設計につながる時間配分や活動方法の違いについても理解することができる。 ・ B1, B2レベルの授業展開について検討し、発表することができる。		
授業の概要	B1, B2レベルの文法の授業とはどのようなものか、現役講師から学ぶ。 テキストの中にある文章の使用場面や学習目標Can-doの違いに着目し、自分で学習目標Can-doを作ってみることでA1, A2との違いについて理解する。また、B1, B2それぞれそれぞれのレベルでよく似ているが違う意味を持つ表現同士の違いについても理解し、授業展開を検討し発表する。 1日目 文法教授法B1 講義、ワークショップ・発表 2日目 文法教授法B2 講義、ワークショップ・発表		

科目番号	養29
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
技能別教授法	13	岡山外語学院 人材育成部 常勤講師	
到達目標	・言語活動である「読む」「聞く」と言語活動の基本となる言語知識である「漢字」の各技能について、すでに持っている理論分野での知識を再確認し、身についた知識を用いて様々なレベルで授業内容を検討をすることができる。 ・技能を育成するための教材について理解をし、あらかじめ設定されたレベル別のタスクについて、授業実施時におけるポイント（言語活動・Can-do）を調査・分析することができる。		
授業の概要	「読む」「聞く」については、それぞれの授業で様々なレベルや場面の読解教材または聴解教材から「日本語教育の参照枠」を参照し、学習目標 Can-do を考えた上で授業を設計し発表する。 「漢字」については、漢字が理解できることの必要性とその認識方法について学び、漢字や漢字語彙の説明方法、コロケーションや組み合わせについても考え、授業内活動を検討し発表する。 1日目 技能別「読む」 講義、分析表 作成・発表 2日目 技能別「聞く」 講義、分析表 作成・発表 3日目 技能別「漢字」 講義、分析表 作成・発表 指定日 授業見学		

科目番号	研30
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
実践研修A1	22	岡山外語学院 人材育成部 常勤講師	
到達目標	<p>・ 文法項目の理解、担当課のねらいの把握、学習者をひきつける授業、誤用の予測と対処、クラスコントロール、トラブル処理（予想外の質問、授業とは無関係の質問、私語などへの対処）が十分にできるように授業の準備ができる。</p> <p>・ 教案を完成させ、模擬授業を経て、単独で外国人学習者クラス（A1レベル）の授業を行うことができる。</p> <p>・ 日本語教員として必要な資質の面での自分の強みと弱みを知り、「日本語教師【養成】」に求められる資質・能力」を理解している日本語教員として、自分が行った授業を客観的に分析し、次につなぐ改善を考えることができる。</p>		
授業の概要	<p>実践研修コアカリキュラムに則り、授業科目として、「日本語教師【養成】として求められる資質・能力」と実践研修との関りを明らかにするオリエンテーション、教科書分析・授業課分析（A1レベル）、授業見学と授業の分析、日本語学校における留学生に対する日本語教育プログラム・カリキュラムを理解した授業準備、教師役としての模擬授業と振り返りを実施する。</p> <p>そして日本語教員として実際に授業ができるように、養成課程などや自ら学んだことなどの総仕上げとして、実際の外国人学習者（A1レベル）を対象とした教壇実習を行う。教壇実習後に振り返りを行い、受講生が一連の流れの中で自身の成長を見出し、また自分の強みと弱みを理解し、改善点を常に考える進化する教育者となる道筋をつける。</p>		

科目番号	研31
------	-----

授業科目名	単位時間数	講師名	所属
実践研修A2	22	岡山外語学院 人材育成部 常勤講師	
到達目標	<p>・「実践研修A1」での反省を踏まえた上で、文法項目の理解、担当課のねらいの把握、学習者をひきつける授業、誤用の予測と対処、クラスコントロール、トラブル処理（予想外の質問、授業とは無関係の質問、私語などへの対処）が十分にできるように授業の準備ができる。</p> <p>・教案を完成させ、模擬授業を経て、単独で「実践研修A1」とはレベルの違う外国人学習者クラス（A2レベル）の授業を行うことができる。</p> <p>・「日本語教師【養成】」に求められる資質・能力」を理解している日本語教員として、自分が行った授業を客観的に分析し、次につなぐ改善を考え、実践研修コアカリキュラムに沿った形で自律的に成長していくために、実践研修全体総括を行い、内省して出てきた反省点について改善を図って実行していくことの繰り返しを続けることができる。</p>		
授業の概要	<p>実践研修コアカリキュラムに則り、授業科目として、オリエンテーション、教科書分析・授業課分析（A2レベル）、授業見学と授業の分析、日本語学校における留学生に対する日本語教育プログラム・カリキュラムを理解した授業準備、教師役としての模擬授業と振り返りを実施する。</p> <p>そして日本語教員として実際に授業ができるように、養成課程などや自ら学んだことなどの総仕上げとして、実際の外国人学習者（A2レベル）を対象とした教壇実習を行う。教壇実習後に授業の振り返りと実践研修全体総括を行い、受講生が自身の成長を確認し、また自分の強みと弱みを理解し、改善点を常に考える進化する教育者となる道筋をつける。</p>		